



# オアシス宗像 講演とシンポジウム

「いのち」を受けとめる町へ！  
最後まで人間らしく充実した人生を送るには。

現在、日本の「ホスピス」の利用対象は  
保険診療上は「主として苦痛の緩和を必要とする悪性腫瘍（がん）の患者  
又は、後天性免疫不全症候群（エイズ）の患者」となっており  
原則として、他の病気で利用はできません。  
私は本来「ホスピス」とは、医療施設を指すものでなく  
人間が人間を「あたたかく、もてなす」人間同士が支えあふ思想だと考えています。  
ホスピスは、すべての人が年齢、性別、人種、国籍、宗教にかかわらず  
享受できる思想であると信じています。  
（原崎行輝著「ぼくが愛したホスピス」より）

日時：2015年 9月 23日（水）秋分の日  
開場12:00 開演12:30～終演16:00（予定）

会場：宗像ユリックス ハーモニーホール  
〒811-3437 福岡県宗像市久原 400 番地

講演者：山崎 章郎（やまざきあきら） 米沢 慧（よねざわけい） 二ノ坂 保喜（にのさかやすよし）

入場料：990円（高校生以下 障がい者 無料）

お問合せ：0940-36-9665（casa 有吉） 0940-32-1286（原崎） 092-872-1136（にのさかクリニック）

主催：宗像ネットワーク（代表 原崎行輝 副代表 有吉京子）

## 講演者紹介



### 山崎 章郎 (やまざき ちかお)

1947年、福島県生まれ。医師、文筆家として活躍。1975年、千葉大学医学部卒業、同大学病院第一外科勤務。1984年、千葉県八日市場市(現匝瑳市)市民病院消化器科医長。1991年、聖ヨハネ会桜町病院ホスピス科部長。2005年、在宅診療専門診療所ケアタウン小平クリニック院長。1991年、「病院で死ぬということ」で日本エッセイストクラブ賞受賞。同作は1993年に市川準監督で映画化された。



### 米沢 慧 (よねざわ けい)

1947年、鳥根県生まれ。評論家として活躍。早稲田大学教育学部卒。都市論、建築論、家族論からも近年は終末期医療、ホスピスなどについて発言している。少子高齢社会の家族像を模索する「ファミリー・トライアングルの会」世話人。「AKHIKO」ゼミ主宰。



### 二ノ坂 保喜 (にのさか やすよし)

1950年、長崎県生まれ。医師、文筆家として活躍。長崎大学医学部卒、長崎大学第一外科で研修のあと、救急医療、地域医療の現場で経験を重ね、福西会病院などを経て、1996年、にのさかクリニックを開業。在宅医としてホスピスに取り組む。著書に「在宅ホスピス物語」(青海社)、「在宅ホスピスのススメ」(監修、木星舎)、「病院で死ぬのはもったいない」(春秋社)などがある。



## 司会

### 有吉 京子 (株式会社 casa 代表 看護師 介護支援専門員)

看護師時代は南無型病床の責任者。子育てが終った頃夫が脳梗塞で倒れ右半身麻痺、高次脳機能障害となり看護師の時には解らなかつた家族の苦悩を知る。一人ひとりの個性や生き方を尊重する社会であってほしい。

## パネリスト

### 田中 好 (ホームホスピスひさの代表 看護師)

会社員を経て看護師に。平成19年、青年海外協力隊員として2年間アフリカ生活。平成26年、宗像市でホームホスピスひさの開設。

## コンサート 山の音楽家 Shana

ギター(原健太郎)とオカリナ(原真由子)の夫婦ユニット。1998年秋、福岡市でオカリナとギターによる演奏活動を始め、2001年に佐賀県杵築村に移住。自然に囲まれ人とのご縁を大切にす家族四人の暮らしの中から生まれる音色を届け続ける。各地での演奏活動、オカリナレッスン、CD制作は2014年末に4枚目をリリース。



### 宗像ネットワーク代表 隈崎 行輝 (くまさき ゆきてる)

1949年、宮崎県延岡市生まれ。20代から国内外を挟し韓国後老人病院(今の療養型病院)で看護師になる。が、日本の医療の在り方に疑問を感じ市民団体「市民ホスピス・福岡」を立ち上げる。48歳でアメリカ・シアトルのホスピスでボランティアとして働きヨーロッパ各地を巡る。2002年に脳出血で倒れ右半身まひと失語症になるが、現在は組織を離れ日本のみならず世界各地を行脚。現在も「ホスピスをすべての人に開かれたものに！」を旗印に、出会った人たちにホスピスの本質を問い続け、差別のないケアの充実を訴え署名活動、会報「オアシス宗像」の発行などを続けている。



## オアシス 宗像